

# 桑名市の地域経済分析について

Vol.2 2023.3

地域経済を活性化させるためには、地域の現状や実態を正確に把握した上で、地域の実情・特性に応じた主体的かつ効率的な施策立案及びその実行が必要不可欠となります。

そこで、桑名商工会議所では日本商工会議所と連携し、国が提供する地域経済に係る様々なデータを見える化(可視化)したシステム「RESAS(リーサス)」を活用し、桑名市の客観的なデータの取得・分析を行いました。

RESASは、地域の人口構成や将来人口をマップやグラフを用い表示していますので、統計データを利用していない方でも見やすくなっています。今後の事業計画の一助としてご利用下さい。

## 内容

●地域経済循環 .....	1
【地域経済循環マップの見方】 .....	1
【桑名市の地域循環の状況】 .....	1
【地域経済循環マップ 2018年と2015年比較図】 .....	2
●生産分析 .....	3
【地域内での所得】 .....	3～5
【地域外からの流入】 .....	5
●地域の人口分析 .....	6
●地域の特徴について .....	6
●桑名商工会議所「景況・業況動向調査・令和4年度下期調査」結果 .....	7
【桑名市全体の現状と各業種の現状について】 .....	7～8
【経営上の困っている問題】 .....	8

### ●地域経済循環

#### 【地域経済循環マップの見方】

「地域経済循環マップ」は都道府県・市町村単位で、地域のお金の流れを生産（付加価値額）、分配（所得）、支出の三段階で「見える化」することで、地域経済の全体像と各段階におけるお金の流出・流入の状況を把握が可能となります。

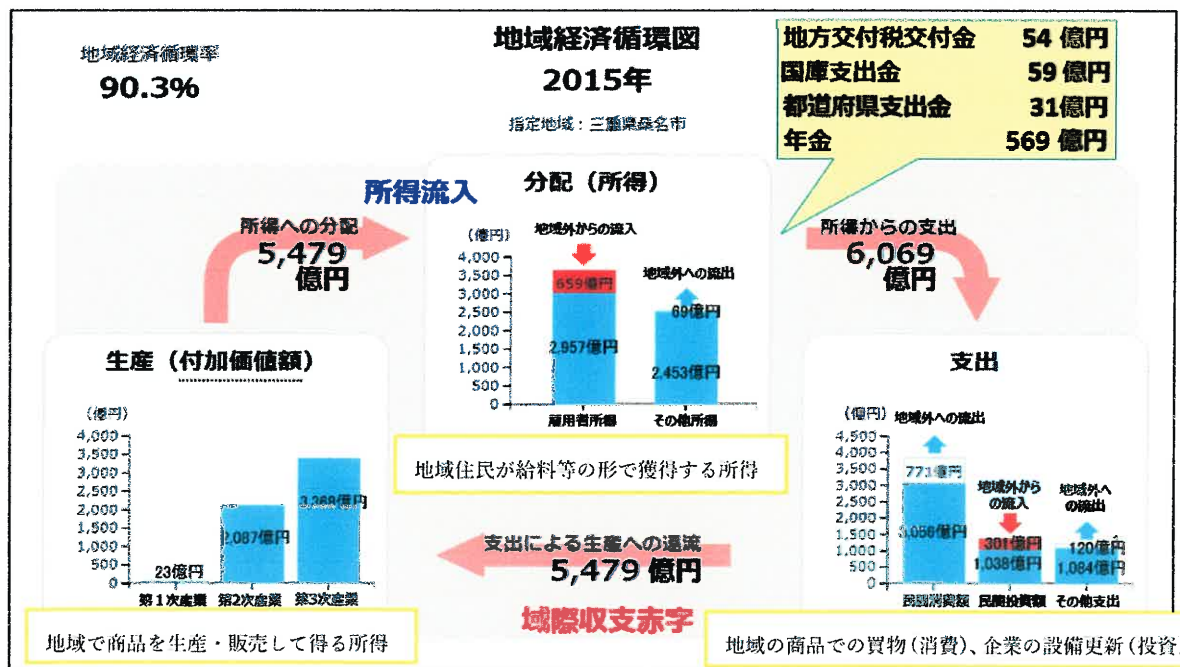
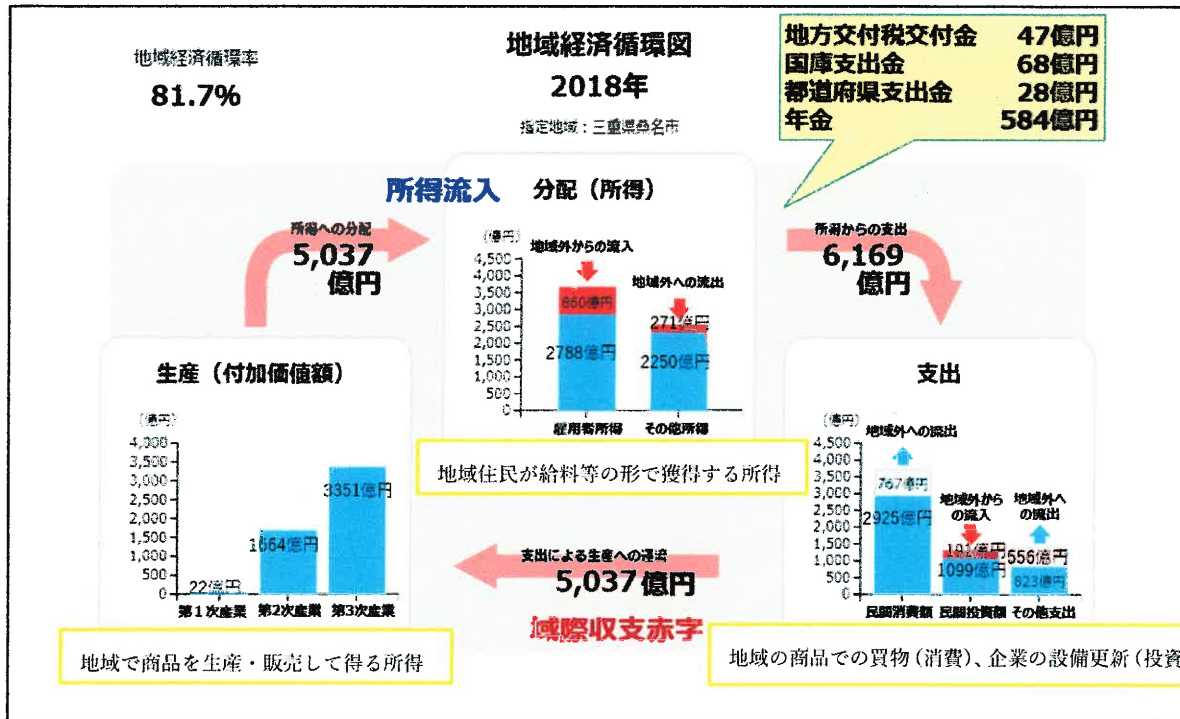
地域内企業の経済活動を通じて「生産」された付加価値は、労働者や企業の所得として「分配」され、消費や投資として「支出」されて、再び地域内企業に還流します。経済を「生産」→「分配」→「支出」→「生産」・・・という循環する流れと捉えることができますが、特に地域経済においては、循環途中に生じる地域外との流出入が重要となります。地域経済への循環の流れを太くすることは、地域経済の発展につながります。

#### 【桑名市の経済循環の状況】

桑名市の地域経済循環図を見ると、支出に対する生産（付加価値額）の割合を示す地域経済循環率が2015年・90.3%、2018年・81.7%となっており、地域外から分配所得を得ている形となっており、経済構造は「ベッドタウン」の傾向を示しています。当地域では、桑名市以外の地域から所得を得る額が2015年から2018年の3年間で201億円増加していますが、桑名市内で得た所得額は169億円減少しています。（次ページの図参照）

【地域経済循環マップ 2018年と2015年比較図】

昨年同誌掲載の地域経済循環図 2015年と RESAS が発表している最新情報の 2018年を比較します。



出典：環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所受託作成)

※「分配(所得)」：雇用者所得・・・住民の労働の対価として受け取る賃金や給料など  
 その他所得・・・財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金など

2018年と2015年を比較すると、

生産（付加価値額）は、▲442億円となっており桑名地域内での生産額が減少しています。なかでも、第2次産業が▲423億円と大きく減少しています。製造、建設、工業産業が伸び悩んでいることが分かります。

分配（所得）は、100億円の増加となっており、桑名地域外で所得を得て桑名地域に持ち込んでいる額が増えています。

支出は、地域間での消費や投資の額ですが442億円減少しています。このことから、2015年に比べ2018年は桑名市では地域外からの分配が増え、桑名市内での生産・支出が減少したことが分かります。

「民間消費額」は総額で3,827億円から3,692億円へと135億円減少しており、地域内での支出、地域外への流出ともに減少しています。「民間投資額」はこの地域に投資された金額を示しており、2018年は61億円多く地域へ投資されていますが、地域外からの流入が2015年に比べ110億円減少しています。「その他支出」とは、市役所や国の出先機関等からの発注額などが含まれており、地域外への流出が多く2015年に比べマイナスとなっています。

### ●生産分析

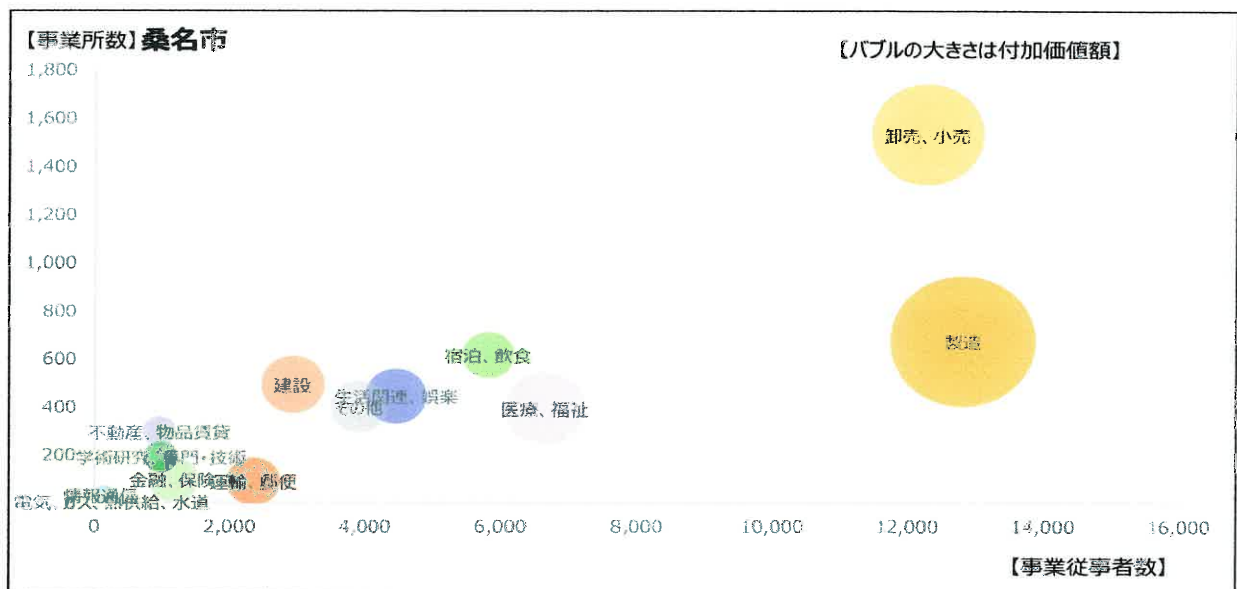
#### 【地域内での所得】

桑名地域の中で各産業の存在感は、製造が事業従事者数と付加価値が大きく存在感があります。また、卸売・小売も事業所数、事業従事者数、付加価値額がともに大きく、存在感があります。

その他に、地域経済循環図と各産業の存在感から桑名市では、第2次産業で製造が、第3次産業ではサービス業（卸売、小売、医療・福祉など）が大きな付加価値を生み出していることが読み取ることができます。

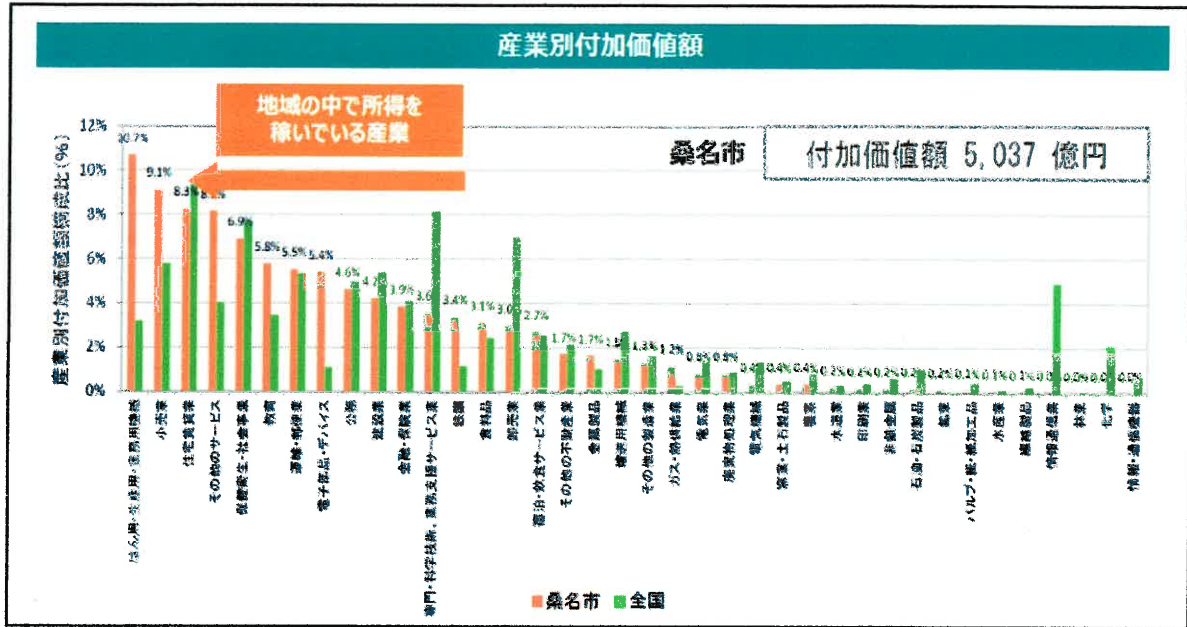
2018年の地域の中で最も所得を稼いでいる産業は、はん用・生産用・業務用機械であり全国と比べても約3倍の10.7%と付加価値額が大きいといえます。続いて、小売業、住宅賃貸業などのサービス業の付加価値額が大きく、これらの産業が地域を支えています。

#### <各産業の存在感>



出典：総務省・経産省「平成28年経済センサス」

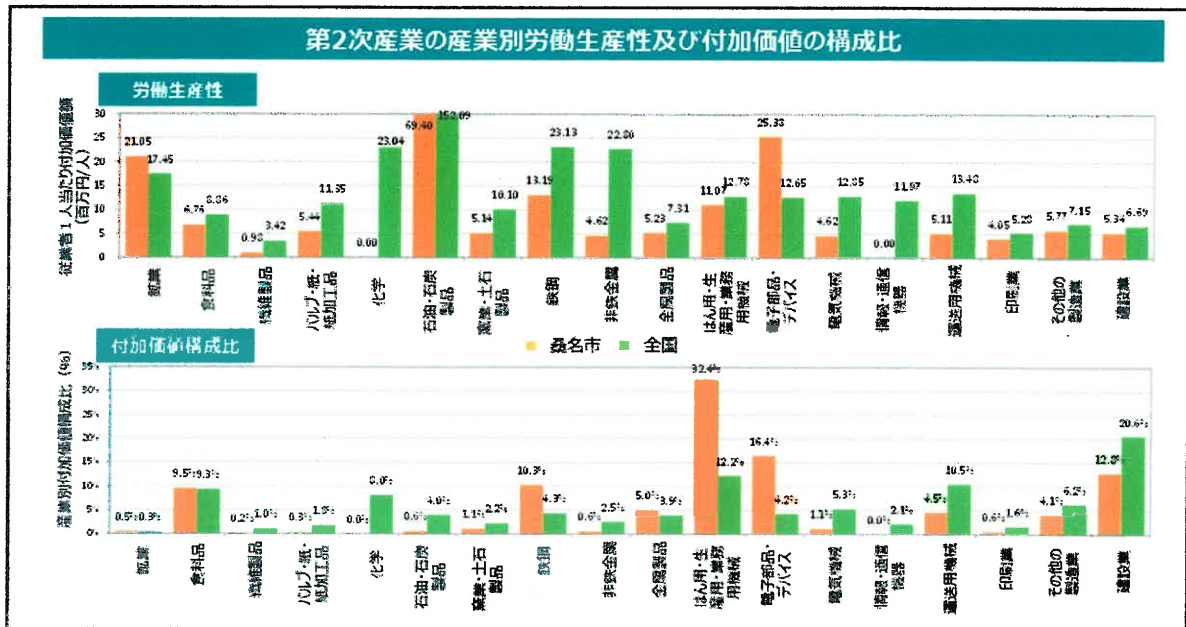




出典：環境省「地域経済循環分析用データ」、総務省統計局「国勢調査」より作成

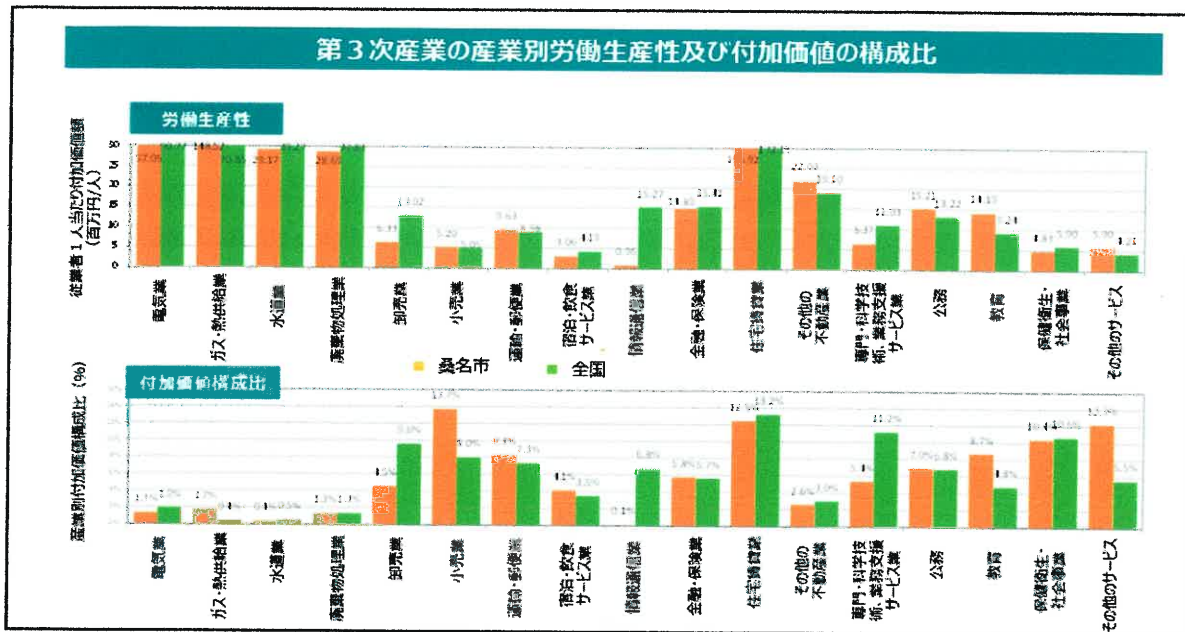
さらに細かく各産業の生産性及び付加価値の構成比を表したものが下の図となります。第2次産業において桑名市でははん用・生産用・業務用機械の付加価値構成比が最も高いが、前回の調査より大きく変化した産業が「鉄鋼」と「電子部品・デバイス」です。前回の調査では、「鉄鋼」の付加価値構成比は 22.0%でしたが今年の調査では 10.3%と△11.7%減少しています。反対に「電子部品・デバイス」の付加価値構成比は 4.9%でしたが今年の調査では 16.4%と+11.5%増加しています。このことから、電気自動車の普及など電子部品・デバイスを必要とするモノが増えていることがわかります。

第3次産業は昨年の調査から大きな変化はなく、桑名市では小売業の付加価値構成比が最も高くなっています。



出典：環境省「地域経済循環分析用データ」、総務省統計局「国勢調査」より作成

※付加価値額の前回との対比



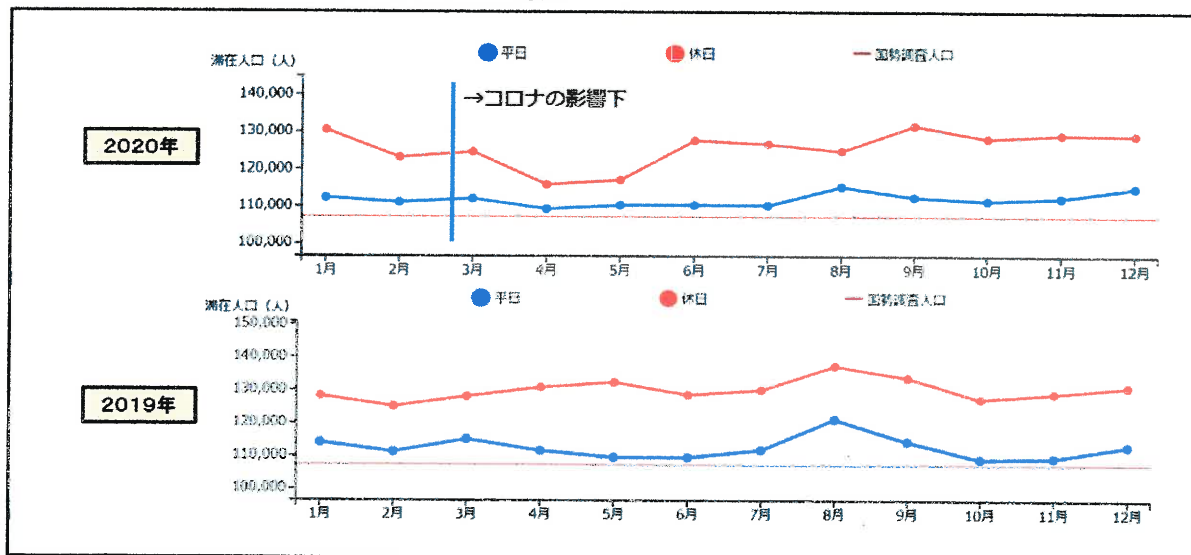
出典：環境省「地域経済循環分析用データ」、総務省統計局「国勢調査」より作成

#### 【地域外からの流入】

桑名市の滞在人口は、平日、休日ともに国勢調査人口を上回っています。平日は通勤・通学等で、休日は買い物・観光等の機会を求めて地域の外から人が流入する拠点性の高い地域となっています。コロナの影響下でも、概ね同様の傾向となっています。

滞在人口の休日は夏から冬にかけて多く、春は少し減少しています。要因として、水郷花火大会や、ナガシマスパークランドでは夏にプール、冬になばなの里でのイルミネーションなど観光産業が桑名市にはあり、地域内・地域外より多くの人が訪れるためと考えられます。

#### <滞在人口の月別推移(2019年2020年:14時)>

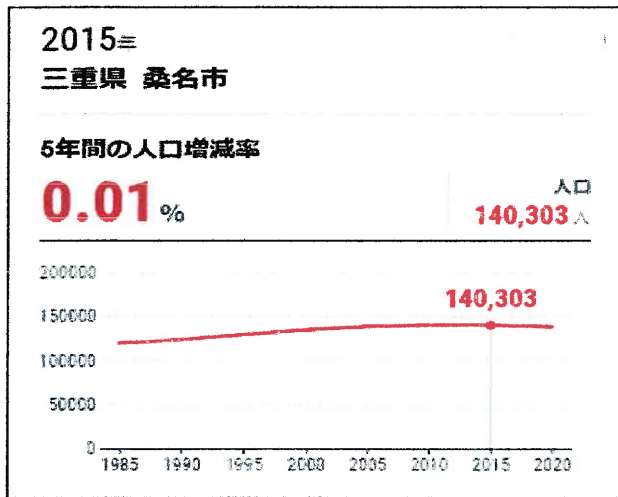


出展：株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間

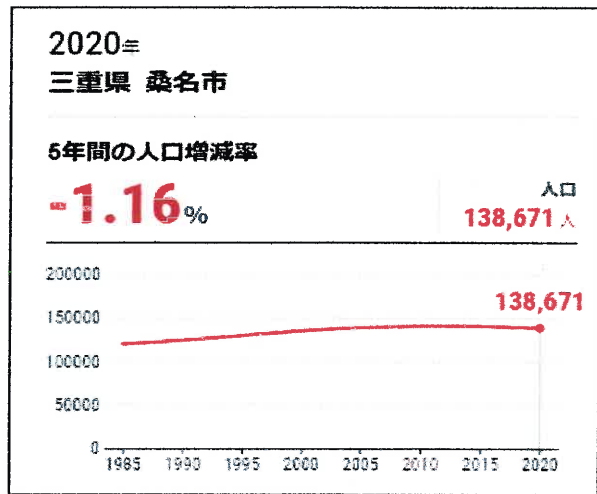
●地域の人口分析

桑名市内の人口は2015年から2020年の5年間で140,303人から138,671人と▲1.16%減少しました。人口の減少は地域の経済循環に大きな影響を与えます。

<2015年桑名市人口>



<2020年桑名市人口>



出典：日本経済新聞「ふるさとクリック 地図で見る人口」

桑名市の子育て世代（30～40歳代）の転入超過率も数年マイナスで推移しており、人口増加にストップをかけています。

子育て世代の減少に伴い、桑名市の年少人口も2011年から2021年（10年間）で約2,000人減少しています。桑名市の人口減少は少子化問題にも直面しています。

<2021年時点 30～40代転入超過率>



出典：日本経済新聞「ふるさとクリック 地図で見る子育て世代の流入」

●地域の特徴について

<生産>

- ・製造業と小売業に存在感があり、地域の中核産業です。変化としては、「鉄鋼」から「電子部品・デバイス」の製造が増え、世界の動きに合わせて桑名市の製造業界も動いています。
- ・引き続き中京圏のベッドタウン的な性格を持っているため、住宅賃貸業に存在感は健在です。

<分配>

- ・ベッドタウンとして名古屋や四日市からの雇用者所得の流入が大きく入ってきます。
- ・観光産業やふるさと納税からのその他所得が流入に変わり、所得が増えています。

<支出>

- ・全体としては人の移輸入が大きいため、民間消費は地域外に流出しています。
- ・地域内の産業や住民の移輸入が多く、地域収支は域外からの流入によって維持させています。



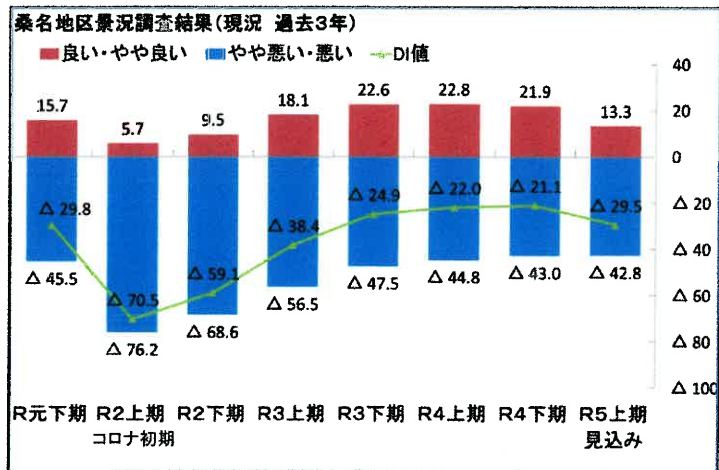
●桑名商工会議所「景況・業況動向調査・令和4年度下期調査」結果

【桑名市全体の現状と各業種の現状について】

桑名商工会議所では、桑名地域の企業の業況と今後の見通し、問題点等を把握するため、会員企業を対象に毎年2回景況動向調査を行っています。このたび令和4年度下期（7月～12月期）の調査結果がまとまりました。

全体の景況動向として、前期調査（令和4年1月～6月期）と比較すると、現状DI値は△21.1となり0.9ポイント改善しました。前期調査から依然として低い状態で推移しており、いずれの業種でも円安や原料高による影響を受けていることがうかがえます。

令和2年上期（新型コロナウイルス発症初期）と比較するとDI値が49.4ポイントの改善となっており、新型コロナウイルスの影響が大幅に減少しました。

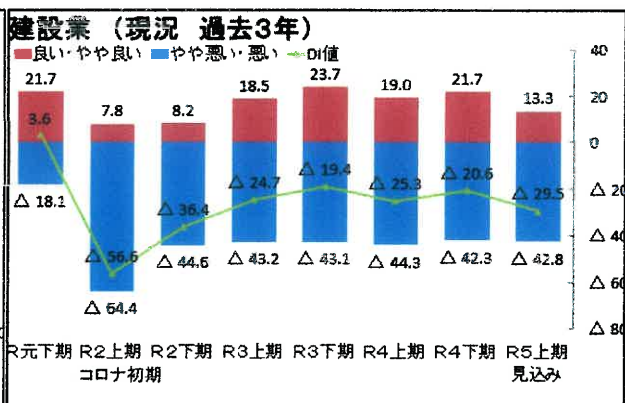
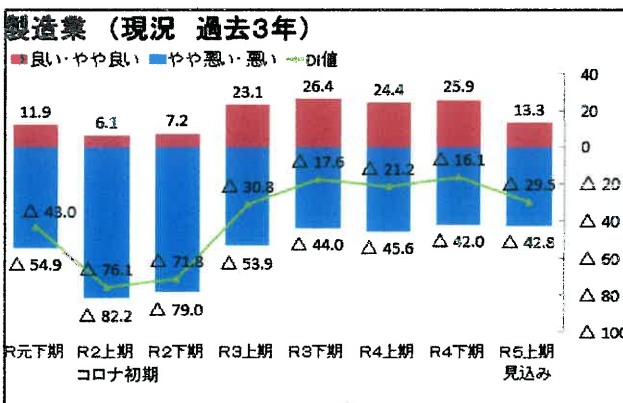


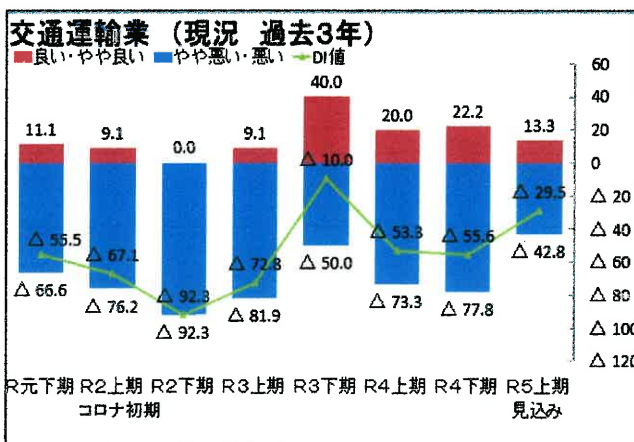
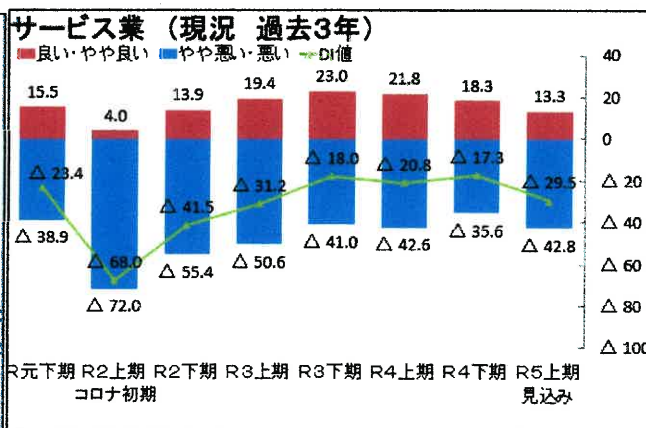
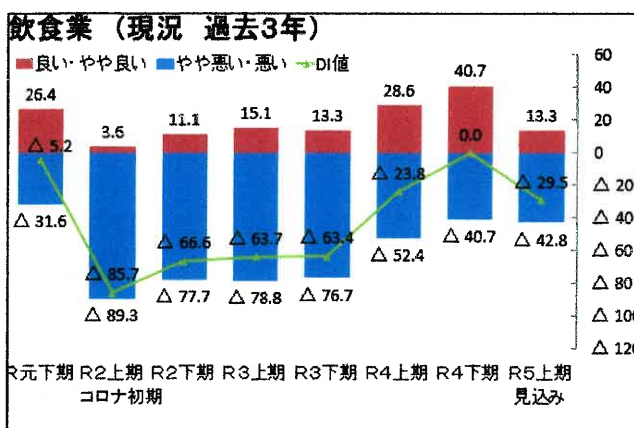
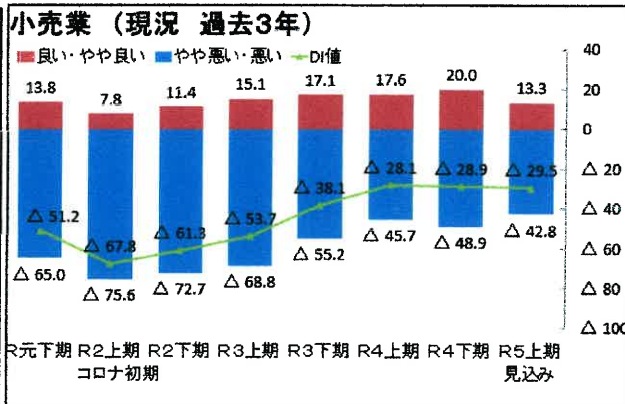
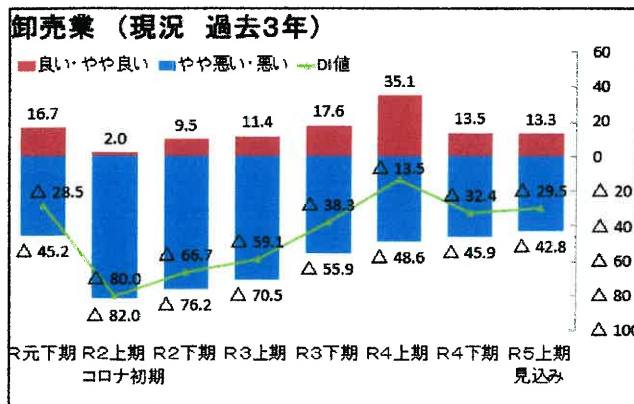
業種別に見ると、建設業・飲食業・サービス業でDI値の改善がうかがえます。建設資材価格の高騰や人手不足など価格競争が激化しているものの、民間工事が堅調に推移しており改善したと言えます。また、飲食業とサービス業では、現在も新型コロナウイルスの影響はあるものの、感染がピークアウトに向かい行動制限の緩和などにより経営への影響が改善されています。

製造業・小売業のDI値はほぼ横ばいで推移しています。製造業では、円安の緩和等による仕入価格の低下により改善傾向にあります。小売業も円安によりインバウンドの増加で免税品、高付加価値商品の販売は改善傾向ですが、物価高による消費マインドの低下で日用品等の買い控えが増加し、商店街や専門小売店を中心に悪化しています。

卸売業・交通運輸業のDI値は悪化しました。卸売業では、令和4年度下期で最もDI値が低く、運送費や在庫保管にかかる光熱費などのコスト負担増に加え、消費マインドの低下による小売店向けの日用品や製造業の業況の影響を受け、海外需要の減退による電子部品関連の引き合いが減少し、悪化したことがうかがえます。

交通運輸業も原油価格の高騰により大幅にコスト負担が増加し、人手不足による人件費の上昇が売上に対し採算が合わない状況であり、DI値が悪化しました。





※DI値（業況判断指数）とは0を基準として+値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多い事を示し、-値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多い事を示す。  
 $DI = (\text{良い} + \text{やや良い}) - (\text{やや悪い} + \text{悪い})$

出典：桑名商工会議所「桑名地域企業の景況調査票」令和元年下期～令和4年下期分

#### 【経営上の困っている問題】

全業種からもあげられた問題が、「原材料高及び不足」と「人手不足」でした。実際の事業者からのコメントにも「原材料高及び電気を含むエネルギーコストが増加している」（製造業）、「飲食業における人手不足及び人件費が増加している」（飲食業）、「仕入金額の上昇が止まらない」（卸売業）、「建設業における人材（職人）の人数が不足している」（建設業）との声が聞かれました。

新型コロナウイルス感染がピークアウトに向かい景気回復への期待感はある一方で、原材料高・エネルギー価格の高騰、人手不足に伴う人件費などの負担するコスト面での経営課題が顕著に表れています。

#### 【発行・問い合わせ先】

桑名商工会議所 TEL 0594-22-5155